

与謝野町公共施設白書

施設カテゴリー編



その他集会施設

3 その他集会施設

その1 施設の概要

その他集会施設は、町が管理している様々な目的（地域コミュニティや産業・農業振興、青少年交流など）で整備された集会施設です。以下の9施設です。

【その他集会施設一覧】

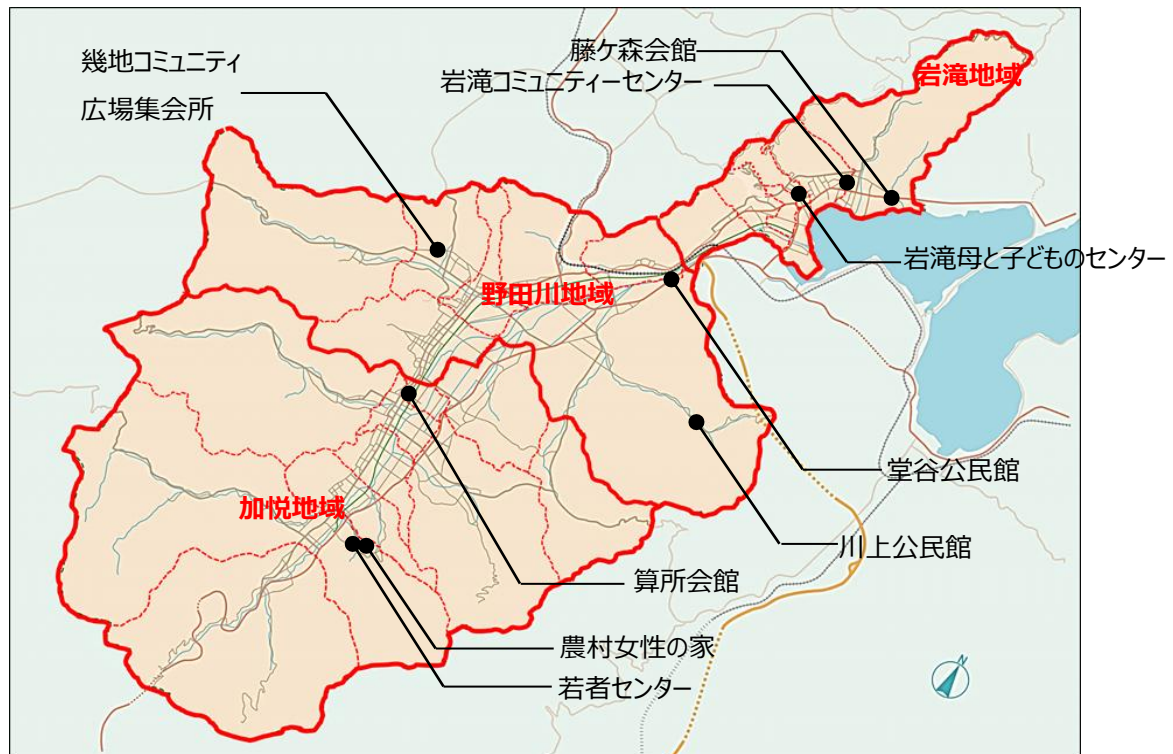
施設名	所在地	面積（㎡）		建築年	運営形態
		敷地	延床		
岩滝コミュニティセンター	岩滝98番地1	1,515.0㎡	438.0㎡	H13	直営
算所会館	算所121番地	635.0㎡	356.90㎡	S55	直営
農村女性の家	滝881番地1	—	209.4㎡	S60	直営
岩滝母と子どものセンター	岩滝1767番地1	668.4㎡	474.8㎡	S49	指定管理
若者センター	滝881番地1	—	379.2㎡	S59	直営
藤ヶ森会館	男山917番地2	未計測	68.4㎡	S45	直営
川上公民館	石川3223番地4	320.6㎡	153.8㎡	S59	地元管理
堂谷公民館	石川1445番地2	282.0㎡	177.1㎡	H1	地元管理
幾地コミュニティ広場集会所	幾地1720番地	—	269.2㎡	H9	指定管理

合計 3,421.0㎡ 2,526.8㎡

※農村女性の家、若者センターは大江山運動公園内、幾地コミュニティ広場集会所は幾地コミュニティ広場内にあり、敷地面積は包含されています。

※藤ヶ森会館の敷地面積は未計測です。

【施設位置図】



① 岩滝コミュニティーセンター

林業に対する意識の高揚と町民のコミュニティーの増進を図るため設置され、高齢者の集いや文化教室など、地域住民に利用されています。

林業振興の国庫補助金を活用して建てられており、農林課所管となっています。



② 算所会館

地域住民の社会的、文化的生活の向上を図るため設置されています。

主に地元の算所区で利用されており、高齢者の集いや文化教室などの会館事業、公民館活動、地域住民の利用があるほか、選挙の投票所としても利用されています。



③ 農村女性の家

農村女性及び高齢者の相互交流及び共同学習を行うことにより生活技術の改善、習得、仲間づくり等農村生活を考える女性活動を助長するとともに、教養を高め、教育文化の向上を図るため設置されています。

大江山運動公園内に設置され、各種団体の集会や料理教室・みそ作りなどに利用されています。



④ 岩滝母と子どものセンター

勤労女性及び児童並びに地域住民の福祉増進を図るため設置されています。

管理・運営は、公益財団法人 宮津与謝広域シルバー人材センターが指定管理者として管理を行っており、主に地元住民のみなさんにもご利用いただいています。



⑤ 若者センター

文化、スポーツ、青年会活動等を通じ、地域内及び他地域の若者との相互交流を深め、文化、教養の向上等福祉増進を総合的に推進し、若者定住対策のために設置されました。

現在は、イベント用の物品を収納したり、アマチュアバンド等の利用があります。



⑥ 藤ヶ森会館

男山地区住民の社会的、文化的生活の向上を目的とする活動及び集会に供するため設置され、主に地域の集会所として利用されています。

なお、地元管理となっていますので利用者数と件数はお示しできません。



⑦ 川上公民館・堂谷公民館（地区集会所）

旧野田川町時代には現在の地区公民館と同様に扱われていましたが、合併以後は集会所として利用されています。川上公民館については、選挙の投票所としても利用されています。

両公民館ともそれぞれ地元の川上地区・堂谷地区に無償貸付けをしており、地区が修繕費・改良費・光熱水費・電話料等を負担しています。

なお、地元管理となっていますので利用者数と件数はお示しできません。



川上公民館



堂谷公民館

⑧ 幾地コミュニティ広場集会所（通称：さんさんパーク集会所）

豊かな住環境の整備と地域コミュニティの向上を図り、住民主体的なふるさとづくりを支援するために設置され、地域住民の活動等に利用されています。

幾地コミュニティ広場内にあり、管理・運営は地元の幾地区を指定管理者に指定して行っています。



その2 施設の物理的状況

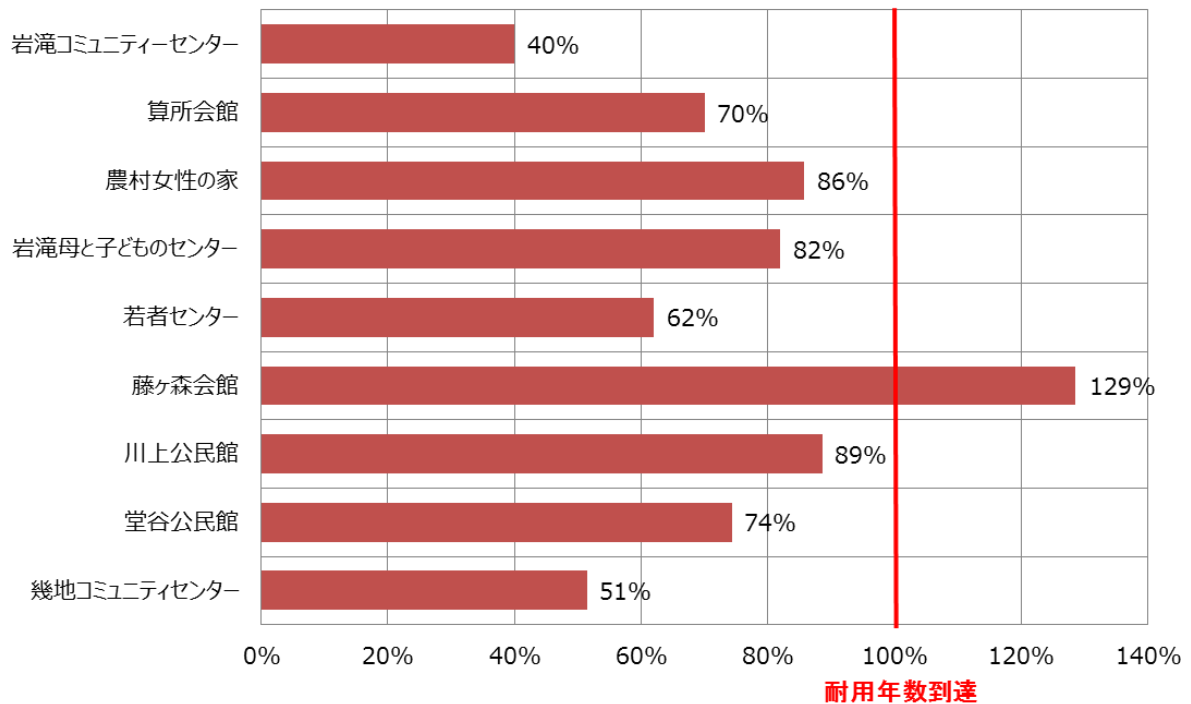
① 老朽化の状況

整備された時期は様々ですが、木造建築が多く耐用年数を短く想定しているため、老朽化率の高い施設が目立っています。

施設名	構造	老朽化状況			耐震性
		建築年	耐用年数到達	老朽化率	
岩滝コミュニティセンター	木造1階建	H 13	H 48	40%	有
算所会館	鉄筋コンクリート造2階建	S 55	H 42	70%	有
農村女性の家	木造1階建	S 60	H 32	86%	不明
岩滝母と子どものセンター	鉄筋コンクリート造 2 階建	S 49	H 36	82%	不明
若者センター	鉄筋コンクリート造 3 階建	S 59	H 46	62%	有
藤ヶ森会館	木造1階建	S 45	H 17	129%	無
川上公民館	木造2階建	S 59	H 31	89%	不明
堂谷公民館	木造2階建	H 1	H 36	74%	不明
幾地コミュニティセンター	木造1階建	H 9	H 44	51%	無

※老朽化率は（経過年数/耐用年数）で算出しています。100%を超えると耐用年数超過になります。

※木造の耐用年数は35年、鉄筋コンクリート造の耐用年数は50年を想定しています。



藤ヶ森会館の耐用年数が超過しています。それ以外も概ね老朽化率が60～90%となっており、カテゴリー全体でも老朽化が進んでいる状況です。

② 設備の状況

その他集会施設は全て同じ目的で建てられているわけではありませんが、農村女性の家と若者センター以外は概ね地区公民館等と同じような施設構成になっています。

【その他集会施設設備一覧】

施設名	設備状況	
	施設の構成	備考
岩滝コミュニティーセンター	ホール、小会議室3部屋、調理室	
算所会館	事務室、調理実習室、談話室、和室、会議室、研修室、集会室	
農村女性の家	共同学習室、調理実習室、農産加工室、給湯室	浄化槽が故障中
岩滝母と子どものセンター	ホール、相談室、調理実習室、技術実習室、図書室、談話室、炊事場	シルバー人材センター事務所あり
若者センター	研修室、サークル室、和室、アトリエ、印刷室、湯沸室、管理室、談話室	屋根に不具合あり
藤ヶ森会館	和室、洗面所、台所	
川上公民館	会議室、大広間、調理室	
堂谷公民館	和室、会議室、調理室	
幾地コミュニティ広場集会所	集会室、和室、調理室	

※トイレや倉庫等は、施設の構成には入れていません。

③ 防災に関する状況

その他集会施設も地区公民館等と同様に避難所指定されているケースが多いです。4 施設が警戒区域内にあります。

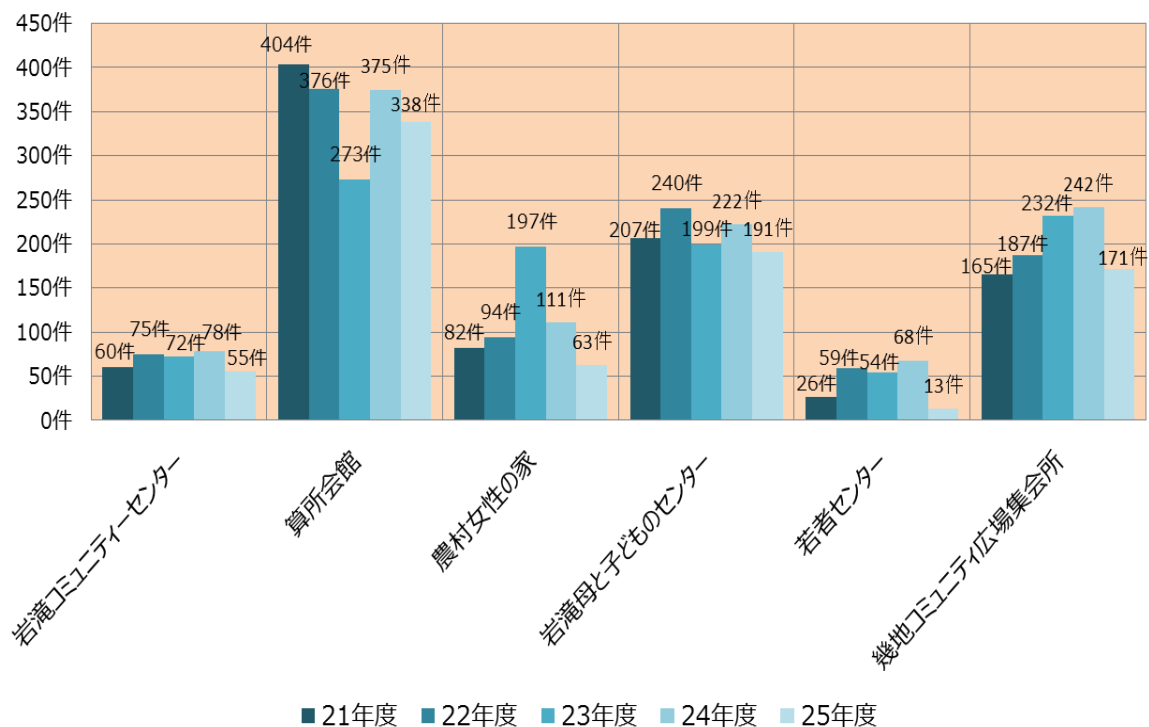
【その他集会施設防災状況】

施設名	避難所指定		警戒区域の指定		
	水害	地震	浸水想定区域	土砂災害（特別）警戒区域	
				急傾斜地の崩壊	土石流
岩滝コミュニティーセンター	○	○	-	-	-
算所会館	○	-	-	警戒区域内	-
農村女性の家	○	-	-	-	-
岩滝母と子どものセンター	○	○	-	-	-
若者センター	○	○	-	-	-
藤ヶ森会館	-	-	-	-	-
川上公民館	○	○	-	-	警戒区域内
堂谷公民館	○	○	-	-	警戒区域内
幾地コミュニティ広場集会所	○	○	-	-	警戒区域内

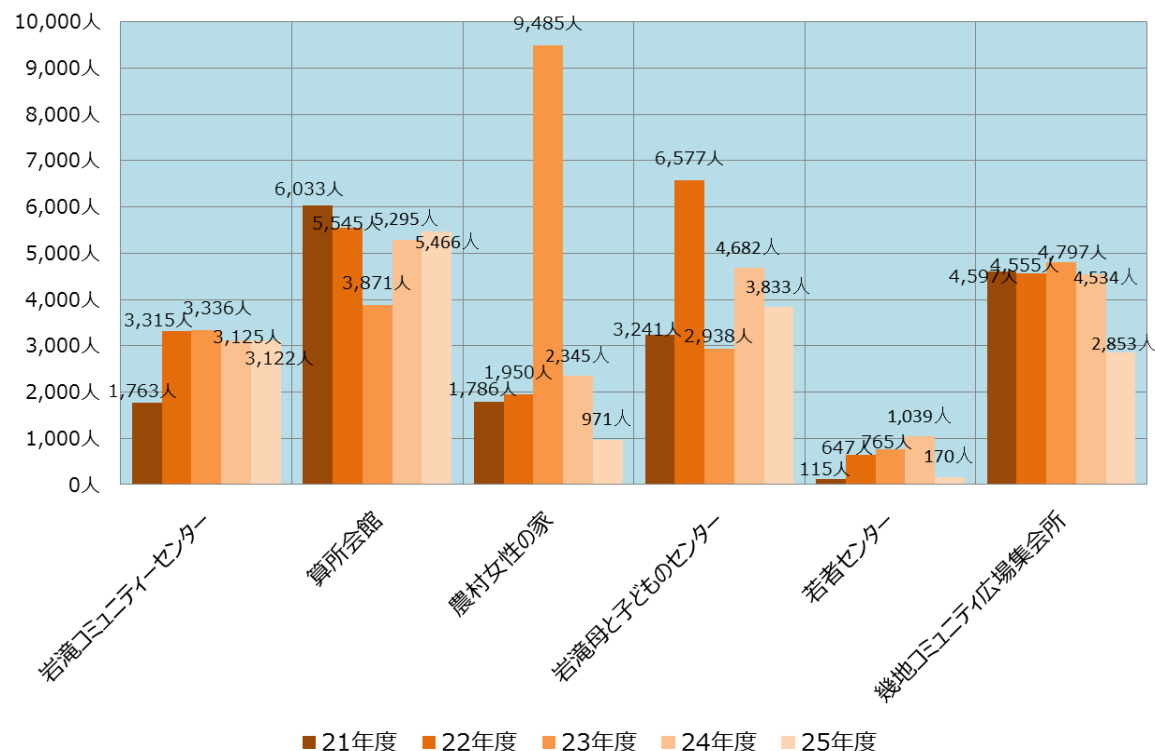
その3 施設の利用状況

施設名	項目	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
岩滝コミュニティーセンター	年間運営日数	305	306	308	306	306
	年間利用件数	60件	75件	72件	78件	55件
	年間利用者数	1,763人	3,315人	3,336人	3,125人	3,122人
	1日当たりの利用件数	0.2件	0.2件	0.2件	0.3件	0.2件
	1日当たりの利用者数	5.8人	10.8人	10.8人	10.2人	10.2人
算所会館	年間運営日数	336	336	225	335	335
	年間利用件数	404件	376件	273件	375件	338件
	年間利用者数	6,033人	5,545人	3,871人	5,295人	5,466人
	1日当たりの利用件数	1.2件	1.1件	1.2件	1.1件	1.0件
	1日当たりの利用者数	18.0人	16.5人	17.2人	15.8人	16.3人
農村女性の家	年間運営日数	365	365	366	365	365
	年間利用件数	82件	94件	197件	111件	63件
	年間利用者数	1,786人	1,950人	9,485人	2,345人	971人
	1日当たりの利用件数	0.2件	0.3件	0.5件	0.3件	0.2件
	1日当たりの利用者数	4.9人	5.3人	25.9人	6.4人	2.7人
岩滝母と子どものセンター	年間運営日数	302	304	303	303	305
	年間利用件数	207件	240件	199件	222件	191件
	年間利用者数	3,241人	6,577人	2,938人	4,682人	3,833人
	1日当たりの利用件数	0.7件	0.8件	0.7件	0.7件	0.6件
	1日当たりの利用者数	10.7人	21.6人	9.7人	15.5人	12.6人
若者センター	年間運営日数	307	307	307	306	305
	年間利用件数	26件	59件	54件	68件	13件
	年間利用者数	115人	647人	765人	1,039人	170人
	1日当たりの利用件数	0.1件	0.2件	0.2件	0.2件	0.0件
	1日当たりの利用者数	0.4人	2.1人	2.5人	3.4人	0.6人
幾地コミュニティ広場集会所	年間運営日数	365	365	366	365	365
	年間利用件数	165件	187件	232件	242件	171件
	年間利用者数	4,597人	4,555人	4,797人	4,534人	2,853人
	1日当たりの利用件数	0.5件	0.5件	0.6件	0.7件	0.5件
	1日当たりの利用者数	12.6人	12.5人	13.1人	12.4人	7.8人

【その他集会施設利用件数推移グラフ】※藤ヶ森会館、川上公民館、堂谷公民館の利用数は把握していません



【その他集会施設利用人数推移グラフ】※藤ヶ森会館、川上公民館、堂谷公民館の利用数は把握していません



利用件数・利用人数ともに若者センターが低い状況にあります。岩滝コミュニティセンター、農村女性の家についても利用が多いとは言えない状況です。

その4 コスト状況

① 管理・運営コスト

管理・運営面での年間コストは以下のとおりです。

【その他集会施設管理・運営コスト一覧】

(単位：千円)

項目	岩滝コミュニティセンター	算所会館	農村女性の家	岩滝母と子どものセンター
賃金	600	2,412	0	0
光熱水費・燃料費	383	547	100	0
通信料・手数料	149	42	0	0
使用料・賃借料	507	72	6	199
消耗品費	7	137	10	37
備品購入費	0	0	0	0
賄・医薬材料費	0	0	0	0
修繕・維持補修費	91	0	10	10
委託料	25	62	100	5
指定管理料	0	0	0	416
その他	0	0	50	18
合計	1,762	3,272	276	685

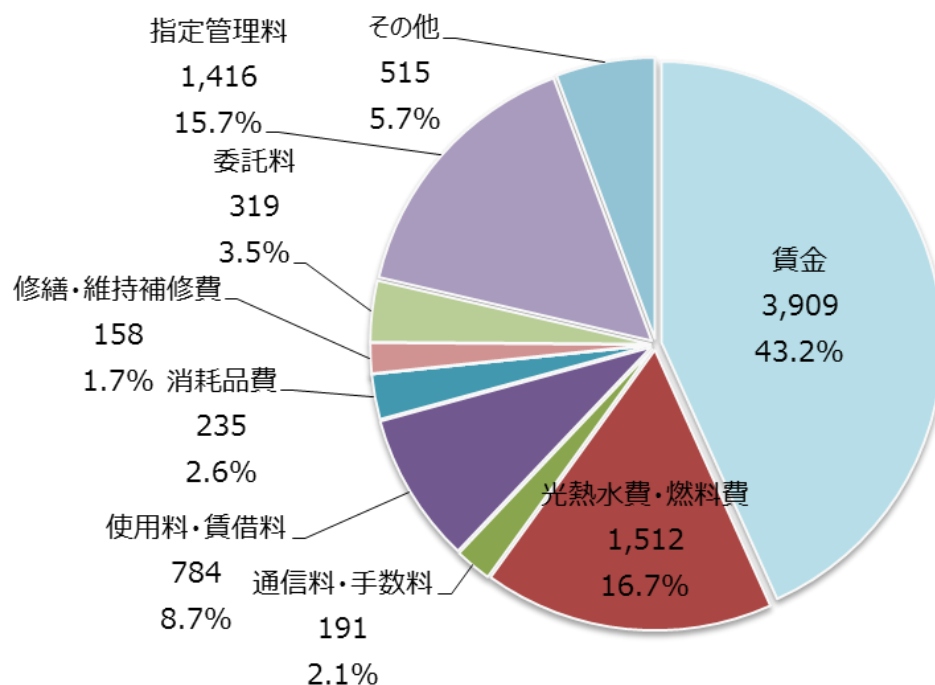
項目	若者センター	藤ヶ森会館	川上公民館	堂谷公民館
賃金	562	0	0	0
光熱水費・燃料費	120	0	0	0
通信料・手数料	0	0	0	0
使用料・賃借料	0	0	0	0
消耗品費	16	0	0	0
備品購入費	0	0	0	0
賄・医薬材料費	0	0	0	0
修繕・維持補修費	47	0	0	0
委託料	127	0	0	0
指定管理料	0	0	0	0
その他	0	12	29	31
合計	872	12	29	31

項目	幾地コミュニティ広場 集会所	合計
賃金	335	3,909
光熱水費・燃料費	362	1,512
通信料・手数料	0	191
使用料・賃借料	0	784
消耗品費	28	235
備品購入費	0	0
賄・医薬材料費	0	0
修繕・維持補修費	0	158
委託料	0	319
指定管理料	1,000	1,416
その他	375	515
合計	2,100	9,039

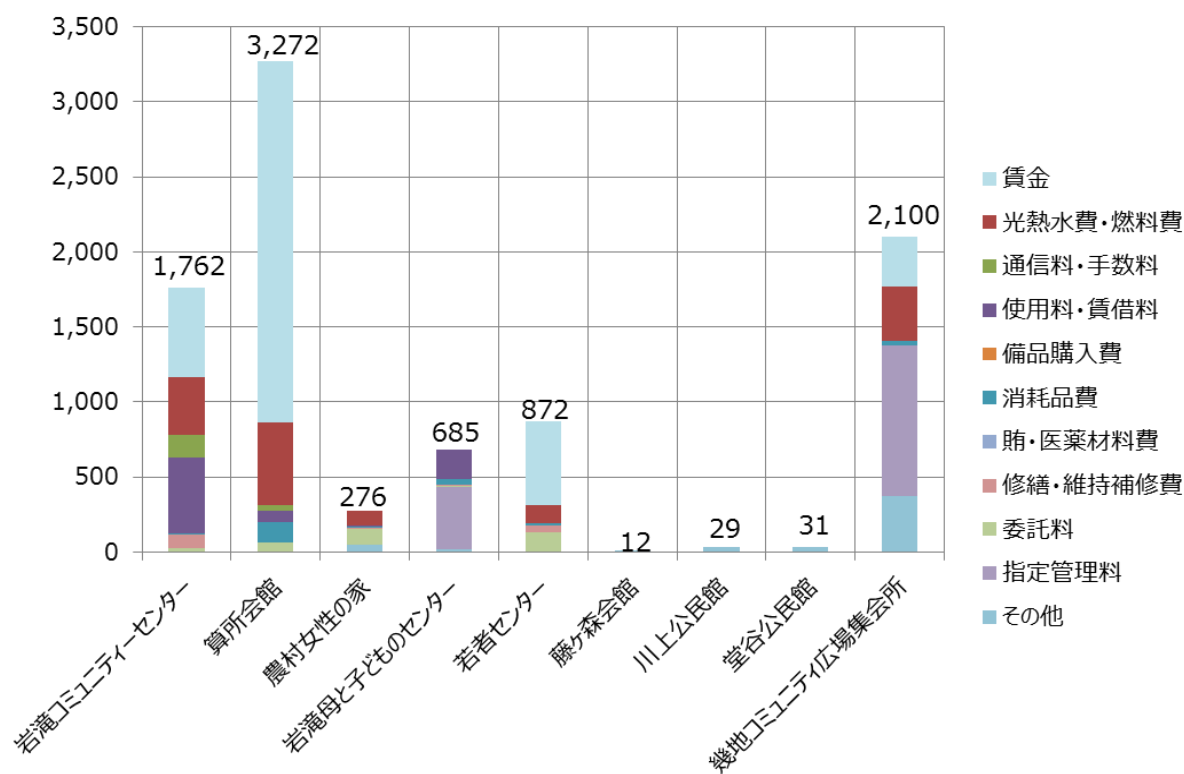
※平成25年度の実績額です。

賃金の支出がある施設は、岩滝コミュニティセンター、算所会館、若者センターの3施設です。岩滝コミュニティセンターには管理人として1名、算所会館には館長1名、管理人1名の2名、若者センターには清掃作業員として1名が配置されています。また、岩滝コミュニティセンターと岩滝母と子どものセンターについては、土地の賃借料があります。

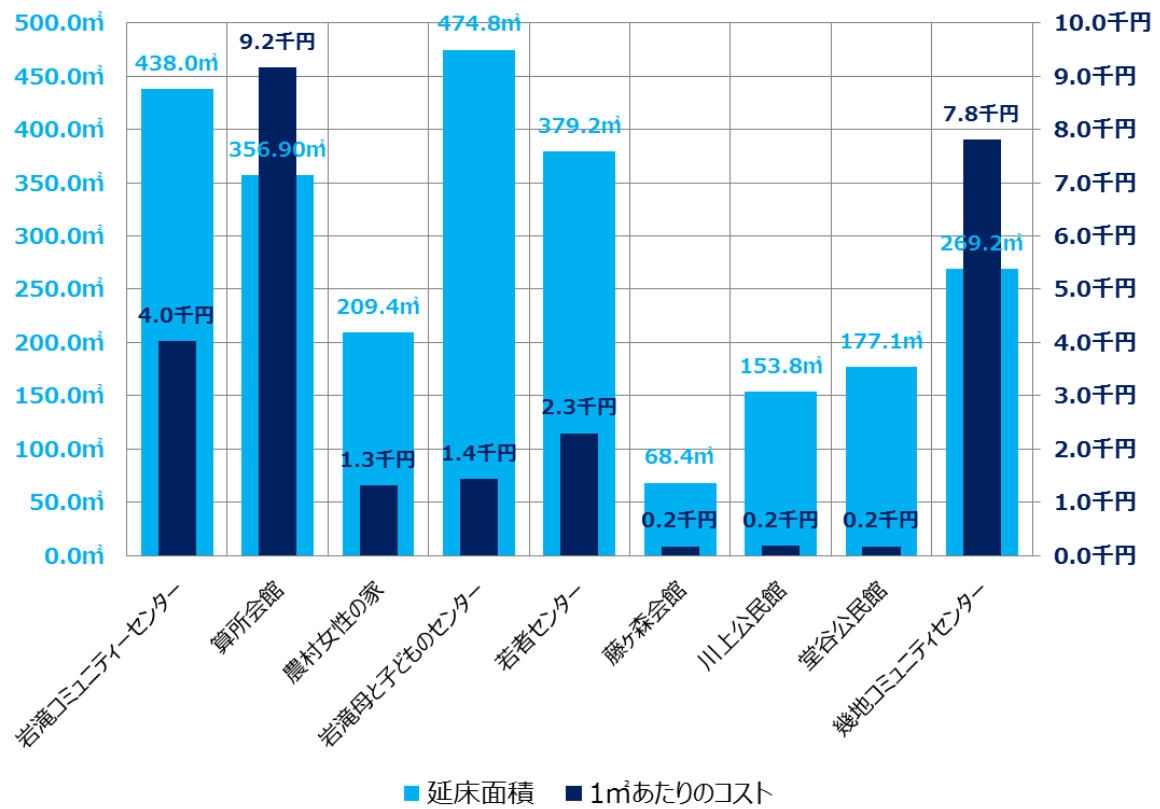
【その他集会施設管理・運営コスト内訳グラフ①（単位：千円）】



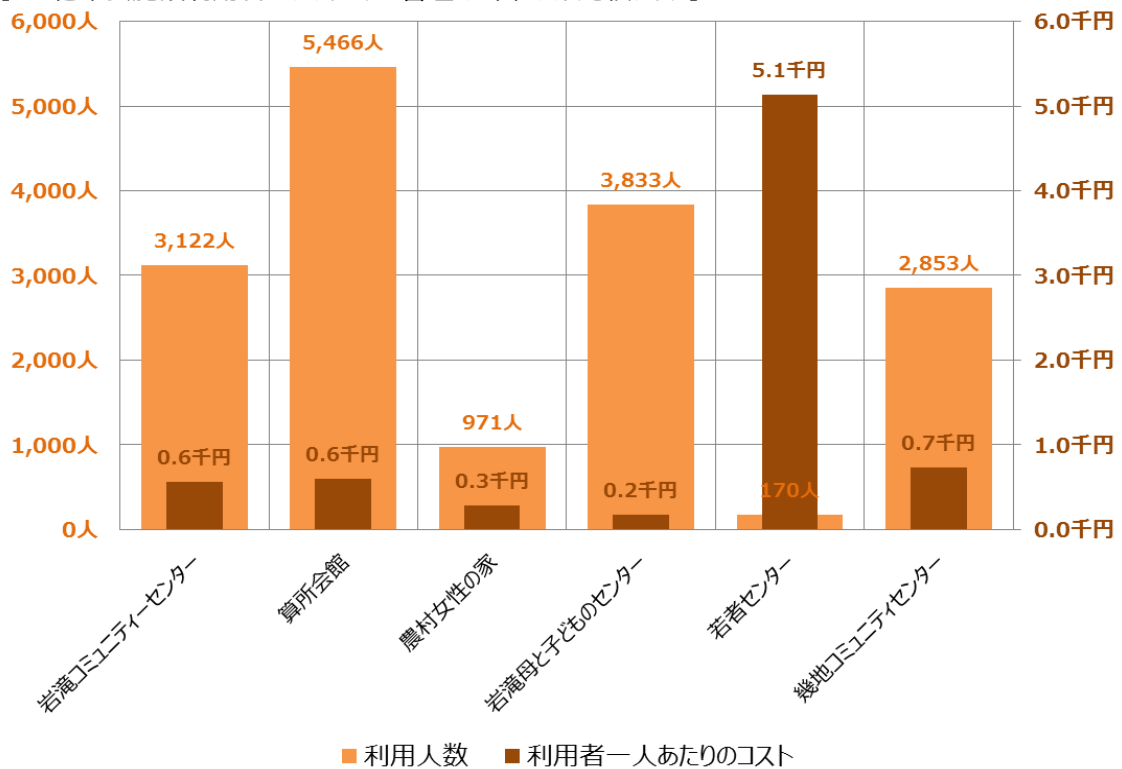
【その他集会施設管理・運営コスト内訳グラフ②（単位：千円）】



【その他集会施設 1㎡あたりの管理・運営コスト比較グラフ】



【その他集会施設利用者一人あたりの管理・運営コスト比較グラフ】



【参考：その他集会施設収入】

(単位：千円)

項目	岩滝コミュニティセンター	算所会館	農村女性の家	岩滝母と子どものセンター	若者センター
利用料金	111	103	53	-	11
補助金など	0	4,608	0	-	0
合計	111	4,711	53	0	11

項目	藤ヶ森会館	川上公民館	堂谷公民館	幾地コミュニティ広場集会所	合計
利用料金	0	0	0	-	278
補助金など	0	0	0	-	4,608
合計	0	0	0	0	4,886

※金額は平成25年度の実績額です。

※冷暖房使用料等は収入に含めていません。

※岩滝母と子どものセンターと幾地コミュニティ広場集会所については、指定管理のため、利用料金は指定管理者の収入となります。

【その他集会施設指定管理者の収入・収支一覧】

(単位：千円)

科目	幾地コミュニティ広場集会所	指定管理者	幾地区
利用料収入	72	収入中の指定管理料割合	87.6%
販売等収入	0	※平成25年度実績です。	
その他	69		
指定管理料	1,000		
収入合計	1,141		
支出合計	1,050		
差引	91		

② 整備コスト（建替え・解体コスト）

【整備時期の考え方】

☆耐用年数到達年に同等施設（同じ延床面積）に建替え。

☆耐用年数経過している建物は5年以内に同等施設（同じ延床面積）に建替え。

☆建替える必要がないと考えられる建物は耐用年数到達年に解体（耐用年数が既に到来している場合は5年以内に解体）

【コストの考え方】

建替えコストは総務省明示のコストを参考に単価を設定しました。

○建替えコスト・・・36万円/㎡（解体費含む：その他施設）

○解体コスト・・・3万円/㎡

これらの単価に現在の延床面積を乗じて算出したコストは以下のとおりです。

【その他集会施設整備等コスト一覧】

(単位：千円)

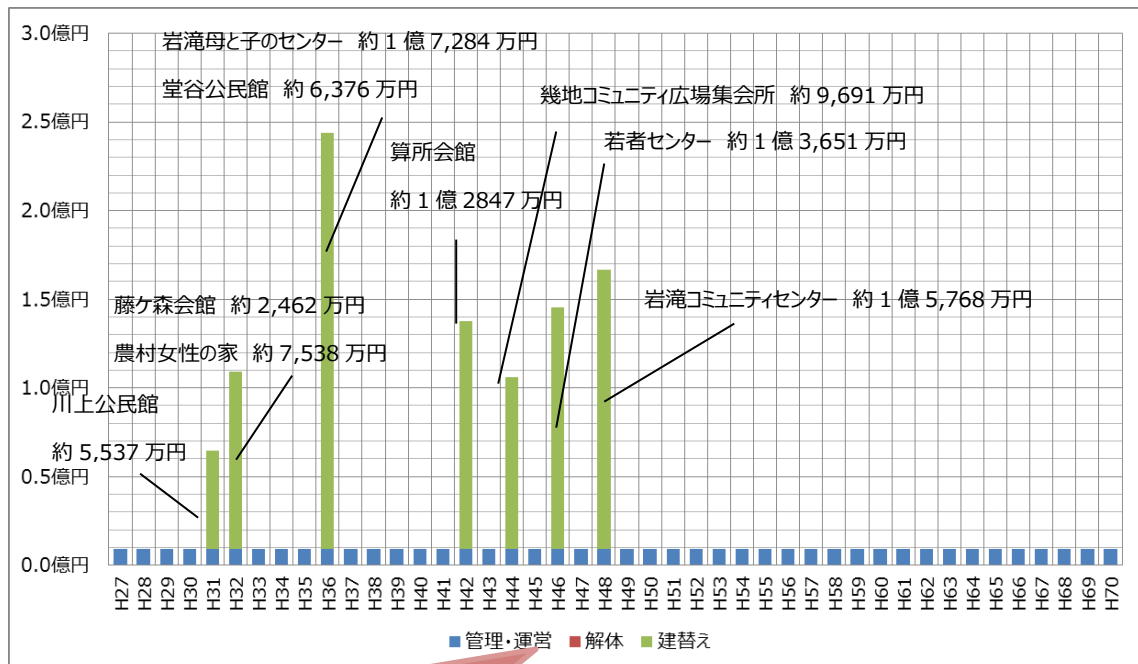
施設名	建築年	耐用年数	当初建設費	建替え		解体	
				実施年度	コスト	実施年度	コスト
岩滝コミュニティセンター	H13	35年	100,110	H48	157,680	参考	13,140
算所会館	S55	50年	63,340	H42	128,473	参考	10,706
農村女性の家	S60	35年	26,600	H32	75,384	参考	6,282
岩滝母と子どものセンター	S49	50年	47,210	H36	170,928	参考	14,244
若者センター	S59	50年	61,473	H46	136,512	参考	11,376
藤ヶ森会館	S45	35年	不明	H32	24,624	参考	2,052
川上公民館	S59	35年	不明	H31	55,368	参考	4,614
堂谷公民館	H1	35年	不明	H36	63,756	参考	5,313
幾地コミュニティ広場集会所	H9	35年	35,947	H44	96,912	参考	8,076
合計				909,637		合計 75,803	

耐用年数が超過している場合は5年以内に建替えとしているため、実際は計画していませんが早期に建替えが必要という見通しです。

また、耐用年数が経過していない施設のなかでも若者センターは老朽化が進んでおり、大規模な修繕（屋根改修）を行うのに850万円の費用を見積もっていますが、現在の利用度がそれほど高くないため保留している状況です。

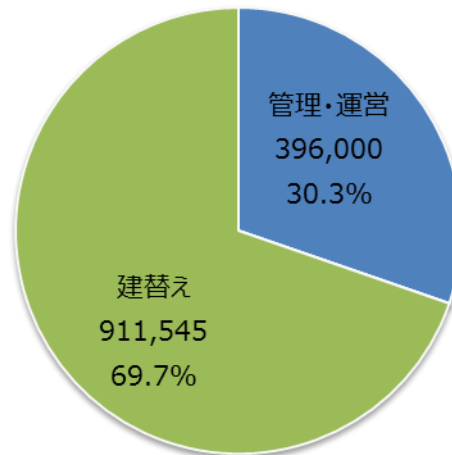
その他集会施設の管理・運営コスト（平成25年度実績をベースに横置き）を含めた将来コストの推移は以下のとおりです。

【その他集会施設将来コスト推移表】



コスト総額約12.8億円（整備9.1億円、解体0億円、管理3.7億円）

【その他集会施設将来コスト内訳グラフ（単位：千円）】



その 5 まとめ

1 現状・課題

●利用状況

藤ヶ森会館・川上公民館・堂谷公民館については、地区集会所の位置づけになっていますので、利用者数等は把握できていません。

その他の施設について、1 日当たりの利用者数で見ると、岩滝コミュニティセンター・算所会館・岩滝母と子のセンターが概ね 10 人以上となっているのに対し、農村女性の家・若者センターは 10 人未満となっています。

●建物状況

岩滝コミュニティセンター・堂谷公民館・幾地コミュニティ広場集会所の 3 施設を除く全ての施設が、築 30 年以上を経過し、施設の老朽化が進行しています。

また、設備面では、農村女性の家は浄化槽が故障していることにより、施設の貸出しに支障が出てきているほか、若者センターについても大規模な屋根改修の必要性があります。

●防災状況

藤ヶ森会館を除く全ての施設が、水害もしくは地震の避難所に指定されています。水害避難所に指定されている施設は 8 施設、水害及び地震の避難所に指定されている施設は 6 施設です。

また、災害警戒区域内に位置している施設が 4 施設あります。

●コスト状況

施設全体の管理・運営コストは約 900 万円です。一方で施設収入は、約 480 万円で、そのほとんどが算所会館運営費のための国庫補助金です。

利用者数の把握ができていない施設について、利用者 1 人当たりの行政コスト（管理・運営コスト/平成 2 利用者数）について見てみると、概ねどの施設も 1,000 円を下回るのに対し、若者センターが 5,100 円と

最も高くなっている状況です

なお、整備コストについては、今後すべての施設を今のまま使用し、それぞれ耐用年数が到達すれば建替える想定とした場合、建替コストだけで約 9.1 億円かかる見込みです。

●現状のまとめと今後の展望

その他集会施設については、町で引き続き所有していくかが課題になると考えられます。特に地元地域のコミュニティ施設として活用されている施設や特定の団体のみの利用となっている施設は、すでに調整を行っているケースもありますので引き続き今後の在り方を検討していくことになります。

一方で、若者センターに関しては、利用度が低く老朽化も進んでいるので、修繕・改修のための予算計上を見合わせている状況にあります。従来の設置目的も考慮しながら、しかるべき時期に廃止等を検討すべきであると考えます。